

本徳寺を読み解く

本徳寺住持 大谷昭仁

「御坊さん」と呼ばれるお寺が姫路には二つある。一つは亀山本徳寺、一つは船場本徳寺である。いずれも前身を英賀本徳寺に持ち、江戸初期に東西に分かれ、播州の真宗拠点として張り合っていた。戦後は、両院とも至って静かではあるが、心なしか元気がない。

しかし、地元のファンは意外に多い。先日、タクシーに乗って亀山の本徳寺を告げると、「御坊さん」のどの辺ですか？と聞かれ、「御坊さんは小さいときにばあさんによく連れていってもらったもんです。説教はようわからなかったが、お御堂の広い縁で座つると、心の底から落ち着くんですわ」と、かっさに話しかけてくる。事わけを言うと、「そういえば本徳寺と言っんですね」。地元の人は、「御坊さん」は身体で分かるが、「〇〇派本徳寺」は頭で理解するらしい。昔は、これといった娯楽も少なく、神社やお寺の催



亀山御坊本徳寺・本堂

この建物は寛政4年（1772）頃、西本願寺で阿弥陀堂の北に建てられた。その後、幕末には新撰組の屯所として使用されるなどしたが、本徳寺の新築本堂が1868年に焼失したため、1873年に急遽亀山に移築されたものである。

県指定文化財

しが唯一の賑を見せしていた。本徳寺も戦前までは彼岸ともなれば、門前に露店が建ち並び山陽電鉄が臨時列車を出すほどであった。戦後になって門前の総会所（説教所）やお講屋（門徒宿泊所）はとりこわされたが、行事ともなれば龍野や加古川、宍粟あたりから同行が群参し、泊まりがけで行事に参加し、説教に聞き入ったと聞かされた。本堂で法要が勤まり、終わると門外の総会所で説教が始まる。交互に大門を大勢の門信徒が行き来するため、我先にと押し倒されて怪我人が出たと古老から聞かされた。今では想像することもできない。

戦後、日本社会は激変した。大門前の説教所（総会所）は節磨の救済寺に移され、本堂として現在も使われている。門徒宿泊所はお講屋とも呼ばれており、播州各所の世話人が出向して講の同行の宿泊の便宜を図っていた。今でも寺内の蔵には、お講屋で使われていた講の提灯が残っている。戦後しばらくは戦災で焼け出された住居者がいたが、今から三十年ほど前に取り壊され、現在では門信徒の駐車場となっている。少子高齢化の波は容赦なく地方に襲いかかる。境内で常に聞かれた子どもたちの遊び声も無くなった。つわものどもが夢の跡である。

「御坊」とは

最近、NHK「軍師官兵衛」の番組製作の担当者から、英賀本徳寺のことで問い合わせがあった。「英賀御坊」と「英賀御堂」の呼称の違いを問われた。知っていることは答えたが、「御坊」という用語の歴史的根拠をたずねたことはなかった。

この際、「御坊」の由来を明らかにしてやろうと思いつき、とりあえず『真宗大辞典』を紐解く。例によって多様な事例を列挙するばかりでほとんど要領を得ない。自分なりにあれこれ考えるよりしかたがない。

最初は「稲田の御坊」のように使われていたようだが、後には「大阪の御坊」のような使われ方をするようになる。ご存じのように、「坊」は本来僧侶の住まいを意味し、その「坊」の主、つまり居住の僧を「坊主」と呼び、親鸞聖人であったり、蓮如上人であったりする。しかるに、「御坊」とは「坊」の尊称で、やはりそこに住まう高徳の僧とが一体になったニュアンスがあった。これが近世にかけてその意味づけが厳密になって来る。どんな組織でも大きくなると、組織の秩序統制が必要となる。本山・別院から中本寺・小本寺そして末

寺に到るまで正確にそのロケーションが決められて、それぞれの権限と役割を担うようになってくる。そのような機能面での時代要請にもなつて「御坊」は本山の別院、あるいはそれに準ずる寺院の名称となつて定着してくるようだ。

実史上、中世英賀時代の本徳寺は勅許院家のステイタスをもち本願寺一向門徒の拠点であった。近世においては西国の録所、や播磨国の中本寺として多くの寺内寺や末寺を抱え、本願寺宗門や幕府の寺院行政において重要な役割を担っていた。

明治になると、近代国家の中央集権化に連動して本末・檀家制度は廃止され、地方分権的な旧宗門は解体された。この時、本徳寺は別格別院となり、播磨国一円の西派門徒の崇敬寺院として運営されることになった。このような歴史的なブランドを肌で感じ取り、地域の人々は親しみと尊崇の念をこめて本徳寺を「御坊さん」あるいは「亀山さん」と呼んできたのだろう。



亀山御坊本徳寺由来碑（門前の門信徒駐車場）

明治になって、1871年に檀家制度が、1876年には本末制度が解体された。これに伴い播州の念仏組織は大きく動く。1905年、別格別院制が制定され、本徳寺は播磨国一円の真宗門徒を信徒として維持運営されるようになった。この石碑は裏面に蓮如上人以来の播州の念仏門の今に到る経緯が簡潔に示されている。戦前の宗教団体法の下では、「真宗本願寺派」であるが、戦後、「浄土真宗本願寺派」と変更された。